

にほんごく
23 日本国 555m 新潟県・山形県

青木広茂

日本国と言う山があると知っている人は当地付近と、一部山好きの人達だけではないかと思われる。この素晴らしい山名を持つ山は、鮭が捕れるので知られている新潟県の村上市内にあるが、山北地方と呼ばれている日本海近くの、山形県を隔てる分水嶺上にあり、歴史と伝説を持っている。また、麓の小俣集落は昔の出羽街道の宿場街として独特の面影を残している。

山名の由来は、いくつか説があり定かでないという。地元の観光情報によれば、その昔、大和朝廷軍が東征、苦戦の末頑強な蝦夷勢力を平定した時、ここ迄が（日本国と蝦夷地との境）としたことが「日本国」の起源ではないかと書かれている。

また、山頂近くの「鷹待場跡」と言われている所に、環境庁・新潟県が立てた看板があり、「日本国」の由来が記されている。《明和七年（一七七一年）の記録に「堀切峠の西、出羽、越後の水落分に鷹待場の跡御座候」とあります。この地で生け捕られ献上された見事な鷹を見た、時の将軍が「捕れた山は今後日本国と名付けよ」と仰せられたことから日本国の地名の由来とも言われております。》云々とある。

また、この山は毎年5月5日に地元で「日本国征服ハイキング」が開催され子供から老人まで大勢登り、小俣宿も賑わうそうである。

登山コースは小俣集落からと山形県側の中ノ俣登山道がある。交通の便から新潟県側が便利である。

新潟駅から特急で1時間20分、府屋駅からバスで20分、狭くなった山あいの小俣溪谷を過ぎ、開けた所が小俣小学校前のバス停だが、日本国登山口前と言えばその先で止まってくれる。そこに、小さな休憩所が有り、登山者名簿も置いてある。見ると名前に引かれてか、全国からポチポチ訪れている。傍には「ふれあいパーク」の建物と広い駐車場がある。

目の前に見える登山口の階段を登ると、直ぐに道は分かれるが少し先で合流する。緩い道を5分ほど行くとラジュウム清水に着く。胃腸、オタフク風邪、目の病気に効くといわれ、わざわざ汲みに来る人がいるそうだ。道は杉林の山腹をジグザクに巻きながら登る。やがて尾根上にでて広い道となり「松の峰広場」に着く、視界が開け県境の低山や小俣集落が見える。

広葉樹林帯の急坂を暫し頑張ると「沖見休憩所」で、見下ろすと日本海に浮かぶ粟島が

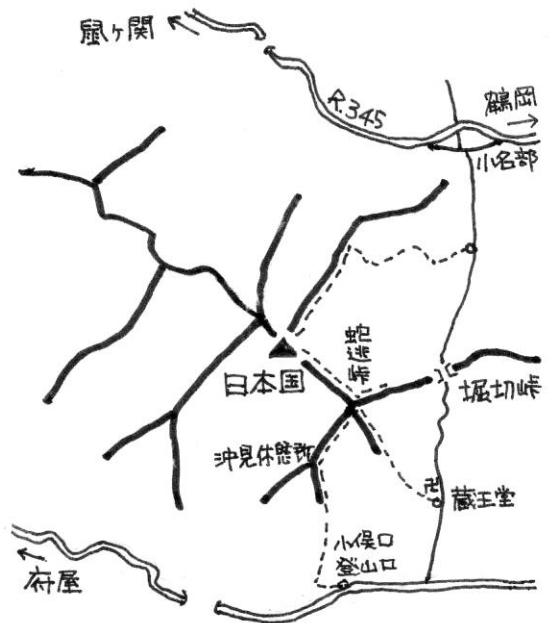
霞んで見える。更に階段状の登り数分で蛇逃峠に着く。東屋の休憩所があり、東と南方面が開けている。日本海に浮かぶ粟島や新保岳、鷲が巢山、さらに三面の山々から朝日連峰と続き、摩耶山の山並や、遠くの月山も見る事が出来る。

「鷹待場跡」を過ぎ、ロープのある急斜面をくんだり一登りすると山頂に着く。二等三角点があり、北側の山々が少し見える。ゆったりした山頂付近には休憩小屋が建っており、テーブル、ベンチもある。ここにも大きな山名由来板を掲げている木造の展望台があり、周囲の山々が見渡せ、遠く飯豊連峰も望める。

下りは、蛇逃峠迄戻り、蔵王堂登山口へ降りるのだが、急斜面をジグザクに転落防止柵や階段が続く。尾根道が緩くなり暫く歩くと杉林の中に蔵王堂が建っている。直ぐ下が蔵王堂登山口で旧出羽街道に面して

いる。荒れ農地を左手に少し歩くと小俣宿に着く。明治時代に建てられた十数軒の家々には屋号を木札形の表札で掛けている。集落の外れにはその名も日本国麓郵便局がひっそりと建っている。その先僅かで元の登山口に着く。

往復4時間の良いハイキングコースである。



二万五千図：鼠ヶ関

問い合わせ先：村上市観光協会山北支部 0254-77-2259

交通機関：新潟交通観光バス・左記の時間のバス利用

往路 府屋駅8・14発雷行き 復路 登山口前13・04

タクシー・府屋駅前に1台常駐している。

最寄りの温泉：勝木町にゆり花会館・素泊、食堂あり